

2020/1/1

(在日就労外国人に対する日本語教育に関する文科省への提言)

英語の文字数はアルファベット26文字。フランス語、ドイツ語、ロシア語等の文字数も似たり寄ったりです。

ところが我が国の日本語は、カタカナ50文字、ひらがな50文字、当用漢字2000文字超。

それに音訓読みもあります。

となると「一体いくつ文字を覚えれば日本語のスタートポイントに立てるのよ？」と外国人は途方に暮れてしまうわけです。

それに加えて、尊敬語、丁寧語、謙譲語など、もう完全にパニックになってしまうわけです。外国人はこの複雑極まりない日本語を難なく話しているそのことだけで「日本人はすごい」と思っているようです。

殆どの日本人は、この事実に気づいておりません。

一方において外国人が自分の国以外に行った折に唯一頼りにする言語である「英語」を日本人のほとんどが喋れないという事実もあります。

このわが国民の日本語の複雑さと特異性に対する認識の欠如と世界公用語である英語がほとんど通じないという事実が、在日就労外国人の生活の不便さ、精神的孤立、就労のチャンス喪失のものとひとつになっているような気がします。

我が国以外で文字数の多い言語といえば中国語の漢字があげられます。日本語表記の母体となった言語です。

その中国においては、どのようにこの文字数が多いという難題を処理しているかといえば、大まかに言ってアルファベット表記をしております。

例えば你好(ニイハオ)はnihao(発音表記は異なります)となります。

であるならば、我が国もひらがな、カタカナ、漢字を無理やり覚えることを第一義とするより、このアルファベット表記(いわゆる我々が言うところのローマ字表記)を主体にした学習法を採用してはどうでしょうか？

勿論、公衆面での看板表記やニューステロップなども併せて。

これで外国人、日本人がローマ字表記でセンターラインに歩み寄れる可能性が産まれます。そもそも、漢字はともかくひらがなとカタカナだけでもいいよとますが、例えばテレビニュースでひらがなカタカナだけのニューステロップがありますでしょうか？必ず漢字との混合表記になったおりましたでしょうか？

なので、外国人は文の中に、一体いくつまで覚えればいいのかすらわからない漢字が混ざったとたん、その時点で読解を諦めてしまうのです。

ですが、耳のいい彼らは、ローマ字表記なら、聞いた音とローマ字表記を容易に結びつけることが可能になります。

この辺の実情を勘案の上、在日就労外国人に対する日本語教育の在り方を、日本人に対する

英語教育の在り方と併せて（既提出「英語教育に関する文科省への提言」及び「英語教育に関する文科省への提言 その2」）ご検討戴ければ幸いに存じます。

2020/1/1

萩生田文部科学大臣様

上記ご査収の上、ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

川崎市麻生区王禅寺東5-34-7

宇都宮 一貴